

酒田市総合計画審議会 第4回産業交流部会 議事要旨

1 日時

令和4年6月20日（月） 午後6時30分から午後8時25分まで

2 場所

酒田市役所本庁舎（3階）第一・第二委員会室

3 出席者

【酒田市総合計画審議会 産業交流部会】

所 属	氏 名	備 考
酒田商工会議 副会頭	西村 修	部会長
酒田青年会議所 監事	佐藤 愛	副部会長
荒生木材有限会社	荒生 麻夕美	
株式会社良品計画 無印良品酒田POP-UP STORE 店長	石田 佳奈子	
酒田市袖浦農業協同組合 理事参事	佐藤 久則	
連合山形酒田飽海地域協議会 幹事	佐藤 克	
庄内みどり農業協同組合 理事	高橋 身依	
酒田ふれあい商工会 会長	富樫 秀克	
東北公益文科大学 公益学部長	三木 潤一	
有限会社若葉旅館 専務取締役	矢野 慶汰	
The Hidden Japan 合同会社 代表	山科 沙織	

【事務局】

副市長、地域創生部長、産業振興調整監、建設部長、農林水産部長、上下水道部長、企画部長、デジタル変革調整監、CDO補佐官、企画調整課長、企画調整課職員

4 議事内容

○事務局より会議の成立について報告

- ・本日の出席委員は11人であり委員定数の半数以上となっていることから、酒田市総合計画審議会条例施行規則第4条第2項の規定により、本日の会議は有効である。

【西村部会長】

- ・酒田市総合計画審議会のなかで、この産業交流部会は、大変重要であると認識している。本日は、委員の皆さまから有効な意見を頂戴できるよう、よろしく願いたい。

5 審議

(1) 今後の方向性及び主な施策について（1回目）

○事務局より資料の見方及び進め方について説明 ※参考資料1・2

- ・本日の部会では、政策の今後の方向性と主な施策について意見を頂戴する。記載内容は市内部で検討したものだが、委員の皆さまからは、今度の方向性と主な施策が適切に設定されているか、重要な課題に対して漏れているものはないか、新たに設定すべきものはないかという視点で意見を頂戴したい。これらの内容が今後5年間の市の施策になる。
- ・最初に、事前に指定の3つのグループに分かれて審議・意見交換を行う。休憩を挟み、次に、全体で審議（第6章を含む）を行う。

○今後の方向性及び主な施策に対する意見等（グループ単位での審議）

第2章 地域経済が活性化し、「働きたい」がかなう酒田

政策1 地域経済を牽引する商工業が元気なまち

- ・サンロクとの連携主体として、地域経済団体（商工会、商工会議所）を記載すべきである。
- ・成果指標「マッチング件数」について、サンロク以外の地域経済団体の数もカウントできないか検討してほしい。
- ・方向性「中心市街地への居住誘導」は、第6章・政策1の施策「持続可能なまちづくり」にも設定されていて、重複している。
- ・中心市街地へ高校生を誘導するイベントが必要である。
- ・起業したいと考える高校生が結構いるので、サンロクによるサポートをお願いしたい。
- ・事業承継だけでなく、事業の閉じ方も課題となっている。
- ・洋上風力発電関連の事業用地として、国県の土地売却を容易にする仕組みが必要である。
- ・現行計画と同様に、成果指標として「年間商品販売額」を設定すべきである。

政策2 環境と経済の両立により産業競争力が高いまち

- ・鳥海南工業団地に立地するバイオマス発電所への燃料輸送のための車両が国道7号を相当数通行するという課題があると聞いている。
- ・臨港線の利活用という視点を入れてほしい
- ・石炭火力発電所の雇用が一番大きい課題であり、更新を含めた手立てをお願いしたい。
- ・フェリー（直江津～酒田～小樽）の誘致が必要である。

政策3 地元でいきいきと働くことができるまち

- ・高校生がチャレンジできる就職口を増やす取り組みをお願いしたい。
- ・地元企業を知る取組みは、高校生からでは遅い。中学1～2年生を対象とすべきである。
- ・女性活躍の取組みの認知度は低く、中身を知っている人は少ない。今までにない情報発信

- の仕方が必要となる。また、ダイバーシティの考え方を子どもたちに伝える必要がある。
- ・障がい者雇用について、単独ではなく企業が集団で対応できる仕組みが必要ではないか。
 - ・成果指標「職場における男女の不平等を感じる割合」は曖昧である。賃金格差や「えるぼし」認定企業数を成果指標とすべきではないか。

政策4 夢があり、儲かる農業で豊かなまち

- ・新たな担い手はどういうイメージか。それがわかるとやることがはっきりする。
- ・新規就農者はいるが、定着していない。現実の農業を知らないで始めても続かない。そのサポート体制が必要である。
- ・新規就農者を呼び込むための体制をつくり、その体制があることを発信することも大事である。
- ・女性が働きやすくするためには、自分の意志で出来ることを増やすための支援が必要である。例えば、トラクターの免許取得は、農業大学校では認定農業者が優先であり、認定農業者でない家族は受講できない。近くで農閑期に取得できるような支援があれば、女性が農業に意欲的に取り組むことにつながる。
- ・水田は条件が異なるため集積は簡単ではない中、基盤整備は土地利用を考えるきっかけとなるので、基盤整備の推進を記載しているのは良いことである。
- ・畑作業が忙しい時期は、堆肥散布に手間をかけられないので、散布する組織があれば委託したいと思う。実施出来ればいい。

政策5 100年続く森林を造り、活かすまち

- ・林業事業者同士が協力すると、もっと森林整備が進むと考えられる。事業者同士のネットワークが必要である。
- ・林業事業者同士だけではなく、農業法人等とも作業の情報を共有する場があれば、お互い繁忙期に支援できるのではないか。農業は求人アプリが出来ている。
- ・新規林業就業者数の目標値が低い。現場は人手が足りない。

政策6 恵み豊かな水産を活かすまち

※特に意見なし

第3章 ファンが多く、移住者・定住者・観光客が増加する酒田

政策1 移住者・定住者が増えるまち

- ・「効果的な施策」とは、どのように実施していくのか。継続的なアンケート調査やビッグデータの活用などを通してエビデンスを調査していくことも必要ではないか。
- ・「SNSを中心としたインターネット広告」は、単に広告を出すだけではなくエビデンスに基づいて効果的に発信することが必要ではないか。

政策2 「おもてなし」があふれ、交流でうるおうまち

- ・宿泊、飲食に代表される「稼ぐ」部分の記載が不足している。
- ・子どもの長期休暇にあわせた長期的なプログラム（子どもだけでも体験できるものなど）を造成することで、子どもがいる方のワーケーションや、ひいては移住にも繋がるのではないか。

- ・情報が不足していることで、夜の食事などの地域経済への波及効果が薄れているのではないかな。
- ・情報発信としては、「口コミ」や実際の人と人のコミュニケーションといったアナログの部分も効果的である。また、SNSを活用している方も多いので、そういった方には気軽にSNS上でやりとりできるような情報発信も効果的ではないかな。
- ・山居倉庫をコア施設として設定し、そこを中心とした周遊プランを作成するなど、観光資源（施設）ごとの役割分担を整理するといったのではないかな。

政策3 「港」発の交流で賑わうまち

- ・クルーズ船は、乗客から下船してもらって酒田の経済に波及効果をもたらしてもらおう仕組みづくりや、そのような意識を市民に持ってもらうことが必要ではないかな。
- ・「LCCによる成田線の再開」とあるが、成田線に限定する必要はない。
- ・羽田空港、成田空港にしか触れられていないが、東海以西（伊丹などの関西方面など）の便もほしい。
- ・飛行機の便を増やすには、利用者を増やす取組みが必要である。インバウンドの観光客は基本的に鉄道を利用するが、往路は鉄道で復路に飛行機など、組み合わせて提案することで利用者も増えるのではないかな。

(2) 今後の方向性及び主な施策について（2回目）

○第6章 都市機能が強化され、賑わう酒田 及び第2章・第3章を含めた全体

(阿部部会長)

- ・ただ今の説明を踏まえて、第2・3・6章について、追加すべき事項や全体的に視点が違うのではないかなということなど、さまざま皆様からご意見を頂戴したい。

(委員)

※意見なし

(副市長あいさつ)

- ・委員の皆さまと意見交換できたこと、大変ありがたい。職員には、各課に持ち帰って意見交換をしていただきたい。私もそれに入って意見交換したいと考えている。今後の方向性或いは目指すところを実現するために、令和5年度の予算をこのように組んだと言えるようにしたい。毎年のことではあるが、今後5年間、酒田市が実施する具体的な事業を組んでいく。勿論、民間の事業所や地域でもいろいろな動きがあるが、市総合計画と市の予算はそのようなものであると考えている。皆さまには、今しばらく力添えをいただきたい。

○連絡事項（事務局より）

- ・次回の部会は、7月25日（月）同じ時間帯ということで予定させていただく。

6 閉会

以 上